

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 3月 7日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	小口 広太
研究課題	食と農のつながりの再構築に関する社会学的研究				
研究キーワード	ローカル・フードシステム、 学校給食、ファーマーズマー ケット、有機農業	当年度計画に対す る達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた		
関連する SDGs項目	3. すべての人に健康と 福祉を	12. つくる責任 つかう 責任	13. 気候変動に具体的な 対策を	15. 陸の豊かさも守ろう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究では、食と農のつながりの再構築の意義と可能性について検討した。研究手法は、主に文献調査を行い、これまで実施してきたフィールドワークの成果をまとめた。まず、文献調査をつうじて先行研究の整理、分析枠組みの設定を行ない、その後、これまでフィールドワークでインタビューを重ねてきた事例を分析した。コロナ禍の影響で、現地調査はできなかった。この点については今後の課題としたい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>「食と農は『協働』の物語を生み出せるのか」『農業普及研究』第53号、pp.11-16、2021年12月、単著、依頼有</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>「有機農業拡大に欠かせない地域の視点」『AFC フォーラム』第69巻8号、日本政策金融公庫、pp.7-10、2022年1月、単著、依頼有</p> <p>「学校給食と連携した都市農業の振興とその意義：東京都小平市を事例として」『千葉商大論叢』第59巻2号、pp133-151、2021年11月</p> <p>『日本の食と農の未来：「持続可能な食卓」を考える』光文社新書、2021年9月、単著</p> <p>「コロナ禍で見直される『農』の力」『有機農業研究』vol.13 No.1、pp.7-9、2021年7月、単著</p> <p>【学会発表等】</p> <p>「独立就農者の育成と有機農業の広がり：『みどりの食料システム戦略』を見据えて」農林水産政策研究所「農山村の持続性確保に向けた新たな動きに関する研究」所内プロジェクト、2022年2月、単著</p> <p>「食と農の『協働』とCSAの可能性：有機農業の歴史を振り返りながら」農林水産政策研究所「農山村の持続性確保に向けた新たな動きに関する研究」所内プロジェクト、2022年2月、単著</p> <p>「食と農は「協働」の物語を生み出せるのか：「耕す営み」からの再出発」日本農業普及学会・山崎農業研究所オンラインセミナー「農の本質と協働：コロナ禍で考える」、2021年10月、単著</p> <p>3. 主な経費</p> <p>調査研究の取りまとめを行うため、関連書籍や雑誌、文具の購入などに使用した。</p>					

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【助成金】

一般財団法人農政調査委員会令和2年度東畑四郎記念研究奨励事業「学校給食の地産地消における『有機化』の意義：長野県下における実態調査をとおして」（個人研究、研究期間：2021年8月～2022年7月）

【その他の活動】

- ・ NPO 法人アジア太平洋資料センター理事（任期：2021年6月～2023年5月）
- ・ 農林水産省農林水産政策研究所客員研究員（任期：2021年9月～2022年3月）
- ・ 日本有機農業学会研究活動委員（副委員長）（任期：2022年1月～2023年12月）